

若い成長力と老年の成熟した力が調和した町づくり



妹背牛町長
田中 一典

町民の皆様、新年明けましておめでとございます。

昨年、妹背牛町の稲作は天候にも恵まれ、質量ともに素晴らしく、米価の水準も納得できる出来秋を迎えることができました。返礼品として人気の高いお米を中心に、ふるさと納税への寄付金が過去最高額の5億円を超えたことも、町民サービスを支える貴重な財源となっています。

さて、昨年を振り返りますと、タイトルにも記した通り「若い成長力」を切に感じた出来事がありました。町内で初めて実施され

た「子ども議会」は、小学6年生が議場での学びを学習発表会の演劇へと発展させました。少子化が進む妹背牛の未来を変えるために子どもたちが奮闘する物語は、行政を預かる私たちに強い刺激と深い感銘を与えてくれました。

また、将来の町づくりには「老年の成熟した力」も必要です。老若男女が創り上げる介護劇は昨年で11年目を迎え、認知症を患っても最期まで自分らしい人生を送りたいというメッセージが込められています。若々しく上昇する力と、老年の人生を見つめる力が調和された社会のパラドクスを保つことへの使命を託されたかのようでした。

第9次総合振興計画に掲げた「小さなまちから広がるつながり暮らしやすいまちもせうし」のテーマは、もちろん行政職員だけで実現できるものではありません。行政が取り組む公的部門の課題を基礎に、町民お一人

おひとりご自己実現できる可能性を認め合いながら、それぞれが輝くことのできる町を目指し、かじ取りをして参りました。

本年も、町としてはゼロカーボンの推進に向けた調査を続けていきます。災害時のレジリエンス（回復力）を強化し、高齢者に対する医療・福祉サービスの確保を最優先課題と捉え、医療・福祉施設のエリアに太陽光発電・蓄電池を導入するマイクログリッドの構築に向け、基本設計を行っています。

また、妹背牛温泉「ペペル」がリニューアルオープンから2年目の年を迎えます。交流人口を増やしながらフル稼働に向けて進んでおり、皆様に癒しと安らぎを与える空間として、従業員一同、気持ちの良いお出迎えに向けて精進して参ります。

幸せのひとときに包まれる温泉のように、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

次世代へと つなげるまちづくり



妹背牛町議会議長
廣田 毅

新年明けましておめでとうございませう。

令和7年の新しい年を皆様とともに迎えることができました。ことを大変うれしく思います。今年も健康で明るいご家庭の更なるご繁栄を心よりご祈念申し上げます。また、日頃より町議会活動に対しまして、深いご理解と格別なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元日から石川県能登半島を震源地とした大きな地震があり、「いつ起こるか分からない自然災害」をさらに強く意識するきっかけと

なりました。本町においては、防災行政無線システムの戸別受信機の貸与が行われ令和7年度より専用のアプリと共に正式に運用が始まる予定で、徐々に防災意識の高まりを感じています。

本町の基幹産業である農業につきましても、資材費の高騰による影響を強く受け、生産者の皆さまは厳しい状況が続いたことと思えます。また、8月には全国的に米不足となりましたが、大きな災害もなく、豊穣の出来秋に恵まれました。米価の上昇が各地で話題になっておりますが、今後は米価が乱高下せず安定的に再生産が可能で儲かる農業につながるよう推移することを願っております。

そして、妹背牛温泉ペペルが、大規模な改修工事を終えてリニューアルオープンいたしました。サウナ施設の充実や売店も様変わりし町外からの利用者も大きく増えました。今後は更に町民から何世代にも渡って親しまれ、永く続いていく施設になっ

ていただきたいと思っております。

新たな試みとして昨年行った妹背牛町子ども議会。小学6年生の児童たちが議場で子ども議員となり本物の議会と同じ進行に沿って一般質問を行いました。子どもならではの視点や家族の困りごとから発展させた質問や提案に関心しながら、今後の参考にさせていただくとともに、町の宝である素晴らしい子どもたちがすくすくと育つ環境を今以上に整えていくために気を引きしめたところでございます。

議会では農業振興や医療体制などについて国への要請活動を継続して行ってきました。新たな政権に対しても変わらず続けていく所存です。また、みなさんの声に応え、妹背牛という町をよりよく発展させて次世代へとつなげていくためにも町民の代表として、精一杯努めていく決意を新たにするとともに、この一年が皆様方にとりまして、幸多き年になりますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。